

小林市立野尻小学校

児童数：112名 学級数：7クラス URL：<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1431/>

<テーマ>

いのちを大切にできる児童の育成
～人権学習と特色ある人権教育の実践を通して～

本校の特色ある取組

1 人権学習の充実

(1) 西諸人権について考える取組

西諸県人権について考える取組とは、西諸県地区全ての学校で、7月と12月に人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を行い、自己理解を深め自尊感情を育てる指導と、他者理解を深め、違いを個性として認める気持ちを育てる指導を充実させている。

学年	題材名	実践内容
1年	きもちのよい言葉（学活）	・ふわふわことばとちくちくことばについて考える。 ・言葉遣いについて振り返り、頑張りたいことを書く。
2年	生き物わくわく（生活科）	・今までの生き物の世話について振り返る。 ・生き物の世話について頑張りたいことを考える。
3年	大切な命（学活）	・自分の命がどのように育てられたのか考える。 ・命が生まれた時の家族の心情を考え、自分の命の大切さについて話し合う。→家庭でも話し合う。
4年	ふわふわ言葉とちくちく言葉（学活）	・ふわふわ言葉やちくちく言葉を出し合い、感想を話す。 ・ふわふわ言葉の言い方の練習をする。
5年	命（道徳）	・11歳で亡くなった登場人物の詩を読み、伝えたかったことは何かについて、全体で話し合う。
6年	命のアサガオ（道徳）	・白血病によるつらい治療に耐えながらも、生きた男の子の気持ちを考えさせ、精一杯生きるとはどんなことかを考えさせる。

(2) ピア・サポート（9月～12月）、SOSの出し方教育（1月～3月）

9月～12月期にピア・サポート、1月～3月期にSOSの出し方に関する教育の授業を各学級で実践することにし、児童が不安やストレスへの対処方法を身に付けるとともに、困難に直面した時に身近にいる信頼できる大人に援助を求め、生活上の諸課題を解決できる能力を育てた。

令和5年度ピア・サポートの実践

1年生の実践

聞き上手になるためのポイントをしろう

【学習の流れ】

- ①話の聞き方の良い例と悪い例の動画を視聴し、受ける印象について考える。
- ②全体で、話の聞き方のポイント(返事をする・していることをやめる・相手に体を向ける)を確認する。
- ③上手な聞き方を習得するための練習をする。



どの班も、聞き方のポイントを意識して聞くことができました。授業後はみんないい笑顔になっていました！

令和5年度ピア・サポートの実践

6年生の実践

愛Iメッセージ

【学習の流れ】

- ①愛Iメッセージとは何か？
- ②イラストを見て考える。
 - 日直をさぼって遊びに行こうとする級友に何と言葉をかけるか？
 - ドッジボールで当たった、当たらないでもめている級友にどんな言葉をかければよいのか？
- ☆ワークシート→ロールプレイ
- ③学習のまとめをする。



自分も相手も嫌な思いをせず、相手に自分の考えを伝える技法について深く考えることができました。

令和5年度SOSの出し方に関する教育の実践

4年生の実践

自分を大切にしていこうために～SOSの出し方～

【学習の流れ】

- ①つらい気持ちになった時、それを軽くする方法
- ②友達がつらそうにしている時、どのようにかわっていくか。
- ③SOSを出すための必要なポイント
- ④誰にも相談できない時はどうするか？



悩みがあるときは、身近な大人など、3人以上に相談することや、つらい時には必ず誰かにSOSを出すこと、友だちがつらそうにしているときは相手の気持ちに寄り添う言葉をつかそうにしているときは相手の気持ちに寄り添う言葉をつかそうにしていることの大切さ学びました。誰にも相談できないときは、相談機関（ダイヤル等）を利用することも学びました。

令和5年度SOSの出し方に関する教育の実践

5年生の実践

不安や悩みの対処方法

【学習の流れ】

- ①アンケート結果の提示
 - ・不安や悩み有無
 - ・どんな不安や悩みがあるか
- ②不安や悩みに思う時とは？
- ③不安や悩みを小さくする方法
- ④友達がつらそうにしていたら、どうすればよいのか。



不安や悩みがあるのは当たり前のこと、困ったときは、誰かに相談することが大切、また、困っている人を助けたら、助けてあげることが困難解決につながる、などの意見が出されました。今回のSOSの授業を通して、当事者としての対処の仕方だけでなく、周りでの関わり方の両方を学ぶことができました。

2 人権研修の充実

(1) 職員研修の実施（7月）

県教育庁人権同和教育課から徳田指導主事を講師として招聘し、「ピア・サポート」と「SOSの出し方に関する教育」について演習形式（模擬授業形式）でご指導いただいた。本研修で学んだことを、1学期後半からの人権教育活動にかかすことができた。

(2) 家庭教育学級での人権研修の実施（9月）

職員を対象に行った模擬授業形式の人権教育研修

【研修内容】

- ①本県の人権課題
- ②人権教育学習について
 - ・ピア・サポート活動についての授業の在り方
 - ・SOSの出し方教育についての授業の在り方



保護者対象にLGBTQをテーマにした講演会



当事者の方を講師としてお招きし、「それでも、生きぬいた」というタイトルで、ご自身の経験をもとに、一生懸命生きてきたことをお話いただいた。子どもたちがつらい思いをせずに生きていけるように、差別のないみんなが幸せだと思える社会づくりの担い手となるように、教師として、親として、今できることに取り組んでいきたいという気持ちになった。

3 特色ある人権教育の充実

(1) 心の教育につながる教育活動

学校行事や常時活動等の学校における教育活動を人権教育の視点で見直して実施し、職員が人権を強く意識しながら、自他の命を大切にできる児童の育成を図った。

全校集会での人権教育講話

毎月行う全校集会での校長講話は人権を題材にした話し、学校や社会での人権上の課題を伝え、学校生活において意識改革を図り、改善できるようにしている。



悪口を言われるたびに、人の心は、この紙のようにグチャグチャになります。そして、この紙は二度と元の状態には戻りません。

お昼のニュース

木曜日以外の給食時間の放送として、世の中の出来事とそれに関連させて、校長からのメッセージを流し、人権問題に関する当事者意識をもてるようにしている。



社会の出来事に対する関心が高まり、校長のメッセージを通して、子どもたちに、よりよい生き方につながる思いをもたせることができています。

ネパールとの交流

国際交流支援の会のご協力のもと、3年生と5年生を対象に、ネパールの方との交流授業が行っている。国際理解教育の充実につながっている。



お互いの国の言葉で挨拶をしたり、自己紹介をしたり、お互いの国のことを質問したりするなどしました。人権教育の推進だけでなく、児童の視野を広げ、グローバル社会で活躍する人材の育成につながっています。

みどりの少年団活動

緑の少年団が中心となり、毎年、一人一鉢、花壇コンクールなど花いっぱい運動に取り組んでいる。いのちの教育の充実につながっている。



一人一鉢で育てた花は6年生の卒業式に飾り、みんなで卒業を祝っています。花壇コンクールに向けて、冬の寒い時期も草取り、水やりなど意欲的に頑張っています。

なかよし放送

隔週木曜日のお昼の放送時間に、人権に関する話（ここに放送）を職員が輪番で子どもたちに伝え、心の教育の充実につなげている。



ここに放送でつかった放送原稿はファイルにストックし、道徳科の時間や学級での指導で活用できるようにしています。

手話学習

毎年、3年生と5年生が手話学習を実施している。障がい者に対する理解と福祉学習の充実につながっている。



あいさつの仕方や天気、物の名前、気持ちの伝え方などたくさんを教えてくださいました。障がいをもつ方々の気持ちに寄り添う周りの関わり方についても学ぶことができました。

縦割り清掃

清掃時間に縦割り清掃班をつくり、上学年が下学年のお世話をしながら、環境美化活動に取り組んでいる。思いやりの心が育っている。



協力することの大切さを学べる。そして、異年齢の子どもたちが交流することにより、お互いにその年齢に応じた立場の役割を経験できることができています。

募金活動（赤い羽根共同募金・能登地震募金）

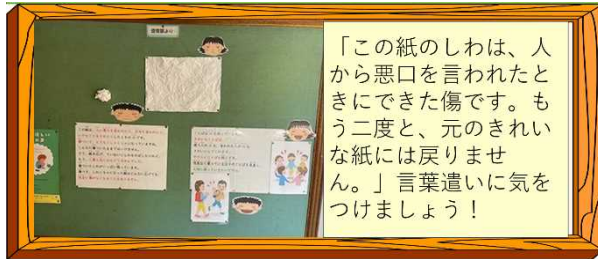
運営委員会が中心となり、毎年、12月に赤い羽根共同募金に取り組んでいる。1月は小林市と姉妹都市である能登町で被災された方々のために、募金活動を行った。



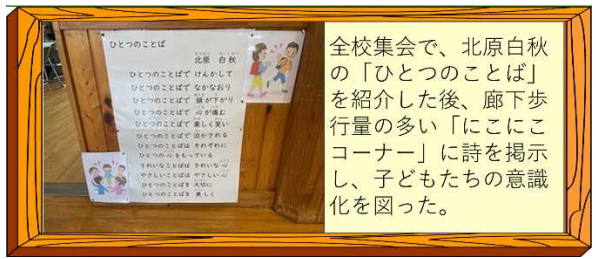
児童主体の募金活動は学校の伝統となっています。地域の方々にも協力していただいています。思いやりの心の育成に大いにつながっています。

(2) 掲示教育（人権教育コーナー「にこにこコーナー」への啓発資料の掲示）

- 児童が廊下歩行中、目に触れる掲示板を「にこにこコーナー」として、仲間づくり、いじめの撲滅など望ましい人間関係の醸成につながる資料を掲示した。人権にかかる集会活動でつかった資料も併せて掲示した。



「この紙のしわは、人から悪口を言われたときにできた傷です。もう二度と、元のきれいな紙には戻りません。」言葉遣いに気をつけましょう！



全校集会で、北原白秋の「ひとつのことば」を紹介した後、廊下歩行量の多い「にこにこコーナー」に詩を掲示し、子どもたちの意識化を図った。



甲子園で優勝した慶応高校生は、試合中、攻守交替の際、ベンチで「ありがとう」と言い合うそうです。仲間を大切にしているからこそ心が1つになって優勝できたのでしょう！



12月の人権週間に合わせて、人権に関する図書を展示した。また、12月の西諸人権に関する取組の指導時にも活用した。

(3) 人権教育の取組の保護者、地域への発信

- 学校における人権教育の取組状況を家庭や地域に伝え、学校や家庭、地域の連携のもとに心の教育の充実につなげられるようにした。

学校HPでのお知らせ（県人権教育推進校として）

県人権教育推進校として

県人権教育推進校指定校としての取組

各学級で行う人権学習を学校のHPで紹介し、学習の流れとどんな学びがあったのかについて、保護者や地域へ伝えた。このことで、家庭においても人権について考える機会が増え、人権についての理解を深めることにつながった。

校長便りでのお知らせ（県人権教育推進校として）

【令和5年度人権教育推進校に指定】

令和4年度本校は、**学力向上・全学年の西語学習**、**平均越え、みやこ 残健便利、和歌、算り**、**音書**、**体力向上（県体力向上優良校授賞「西語では唯一」）**において着実な実績を挙げました。令和5年度は県から、「人権教育推進校」の指定を受けたため、德育：心の教育の充実に向けて力を尽くしたいと思います。知徳体食バランスの取れた教育の充実を図っていきます。

校長便り第1号で、県人権教育推進校に指定されたことを伝え、その後、人権教育学習の取組の様子も随時掲載した。このことで、地域においても人権について考える機会が増え、人権についての理解を深めることにつながった。

成果と課題

(1) 成果

- **人権感覚の育成について**
人権教育全体構想の下に、人権教育環境整備を行い、組織的・計画的に人権教育を推進したことで、発達段階に応じて自他の命を大切にしようとする心情や態度を育むことにつながった。
- **教職員の人権感覚の高揚と指導力の向上について**
人権同和教育課の支援を受け、人権教育に係る研修会を実施し、内容を充実させたことで、ピア・サポートやSOSの出し方に関する教育の実践的指導力が向上するだけでなく、人権に関する理解が深まり、職員の人権感覚の高揚につながった。
- **地域と連携した人権尊重の精神の醸成について**
保護者を対象に人権教育講演会を実施したり、人権教育の学びをHPや学校便りで発信したりしたことで、人権が尊重される家庭づくり・地域づくりにつながった。

(2) 課題

- **全ての教育活動における人権教育の推進について**
ピア・サポートやSOSの出し方に関する教育以外の教育活動及び日常指導を人権教育の視点で見つめ直し、意図的・継続的に人権教育を推進できるよう今後もさらに指導の在り方を模索し、児童の人権感覚の高揚を図る。
- **教職員の人権教育実践的指導力のさらなる向上について**
校内での人権教育研修の充実を図ったり、積極的に人権教育研修講座等に参加したりして、教職員が同和問題をはじめとする様々な人権問題への理解を深め、人権尊重の意識をもって教育活動に取り組めるようにする。
- **家庭・地域と連携・協働した人権教育の推進について**
人権が尊重される地域づくり・家庭づくりに向けて、講演会を実施したり、積極的に情報を発信したりして、地域ぐるみで人権意識を高める風土づくりを行う。